

富士が織りなす
美しい水景の地

忍野村

村制150周年



忍野村の歩み

Oshino Village

忍野村は2月15日村制150周年を迎えた。清らかな湧水と雄大な自然に恵まれた忍野村。農業や製造業が根付き、地域経済の発展とともに人口が増え、出生率は県内一高く、人口と世帯数も年々増加傾向だ。観光面でも神秘的で美しい忍野八海をはじめ、美術館や水族館などの施設も充実。「二十曲峠展望テラス～SORA no IRO～」も完成し、富士の絶景を望む抜群のロケーションは国内外から注目を集めている。今年は忍野村誕生から150年のメモリアルイヤー。長い歴史を紡いできた忍野村の歩みを振り返り、これからを展望する。



「富士山と桜」



「二十曲峠展望テラス～SORA no IRO～から望む富士山」



「忍野八海の『湧池』」

魅力あふれる水の郷を次世代へ

の節目を迎え、さらなる発展を目指す。

今後、忍野村が村制150周年を迎えることを大変喜ばしく思うと同時に、これまで今日の忍野村を築いていただいた先人の皆さま方に心より感謝し敬意を表します。

長い歴史を振り返りますと、ファナックの本社移転が大きな転換期であり、この大きな出来事は忍野村だけでなく富士北麓全体に大きな経済効果を及ぼしてきております。

その中、忍野村はその豊かさを享受してきておりますが、時代とともに社会情勢も変化してきており、迫りくる少子高齢化、人口減少、過疎化対策など、常に未来を見つめて対策を考え、忍野村の持てる資源を最大限に有効活用し、未来に向けての布石を打っていかねばなりません。

その中の一つとして、杓子山南麓を有効活用し、訪れる多くの方が村内に長く滞在できるよう、レジャー施設、宿泊、文化施設などの誘致を検討し、サービス産業をはじめとする各産業を充実させ、20～40代女性や多くの人々が働ける場の創出に注力していく必要があります。

また、農業と観光を組み合わせる付加価値を高めることを訴求しつつ工業系企業の誘致にもさらに力を入れていきます。並行して山中湖までの一市二村間連絡道路を早期着手し、さらに将来的には静岡小山町ヘトンネルで延伸し第二東名に接続することにより防災避難道、観光面にと経済活動の基幹道路として活用できると期待しているところです。

さまざまな方向からアプローチすることで村の総合的な活性化につながっていくと考えております。今後も「温故知新」、過去の出来事を踏まえ、明るい未来のために今何をすべきかを考え実施するとともに、布石を打って次世代につないでいくことが大切です。

村民の皆さんの意見を丁寧に聞きながら、考え方や価値観を時代に合わせてアップデートしていくことも必要です。稼げる仕組みを構築し財源を確保する中、高齢者福祉施策のさらなる充実、子育て支援・教育水準の向上を目指し、子どもから高齢者まですべての人々が住みやすい村創りを目指すことが若い世代の定住化促進につながり、そして子どもたちがこれからも笑顔で元気で暮らし、大人になってもずっと住み続けたいと思えるような忍野村を築いていけるよう邁進していきます。

子どもの笑顔あふれる村に

大森 彦一村長



この度、忍野村が村制150周年を迎えることを大変喜ばしく思うと同時に、これまで今日の忍野村を築いていただいた先人の皆さま方に心より感謝し敬意を表します。

長い歴史を振り返りますと、ファナックの本社移転が大きな転換期であり、この大きな出来事は忍野村だけでなく富士北麓全体に大きな経済効果を及ぼしてきております。

その中、忍野村はその豊かさを享受してきておりますが、時代とともに社会情勢も変化してきており、迫りくる少子高齢化、人口減少、過疎化対策など、常に未来を見つめて対策を考え、忍野村の持てる資源を最大限に有効活用し、未来に向けての布石を打っていかねばなりません。

その中の一つとして、杓子山南麓を有効活用し、訪れる多くの方が村内に長く滞在できるよう、レジャー施設、宿泊、文化施設などの誘致を検討し、サービス産業をはじめとする各産業を充実させ、20～40代女性や多くの人々が働ける場の創出に注力していく必要があります。

また、農業と観光を組み合わせる付加価値を高めることを訴求しつつ工業系企業の誘致にもさらに力を入れていきます。並行して山中湖までの一市二村間連絡道路を早期着手し、さらに将来的には静岡小山町ヘトンネルで延伸し第二東名に接続することにより防災避難道、観光面にと経済活動の基幹道路として活用できると期待しているところです。

さまざまな方向からアプローチすることで村の総合的な活性化につながっていくと考えております。今後も「温故知新」、過去の出来事を踏まえ、明るい未来のために今何をすべきかを考え実施するとともに、布石を打って次世代につないでいくことが大切です。

村民の皆さんの意見を丁寧に聞きながら、考え方や価値観を時代に合わせてアップデートしていくことも必要です。稼げる仕組みを構築し財源を確保する中、高齢者福祉施策のさらなる充実、子育て支援・教育水準の向上を目指し、子どもから高齢者まですべての人々が住みやすい村創りを目指すことが若い世代の定住化促進につながり、そして子どもたちがこれからも笑顔で元気で暮らし、大人になってもずっと住み続けたいと思えるような忍野村を築いていけるよう邁進していきます。

150年間の 主な出来事

1875 (明治8)年	2月15日 忍草村と内野村の合併により忍野村誕生
1897 (明治30)年	50年以上の歳月を経て「内野用水」が完成、通水落成式を挙行
1916 (大正5)年	忍草尋常小学校と内野尋常高等小学校が合併、忍野尋常高等小学校となる
1919 (大正8)年	村内に初めて電灯が灯る
1931 (昭和6)年	忍草に富士国際競馬場開場
1934 (昭和9)年	忍野八海が国の天然記念物に指定
1937 (昭和12)年	村内に電話が3本引かれる
1947 (昭和22)年	忍野村立忍野中学校創立
1949 (昭和24)年	富士山麓鉄道のバス乗り入れ開始
1951 (昭和26)年	木造役場庁舎完成
1960 (昭和35)年	陸上自衛隊北富士駐屯地ができる
1975 (昭和50)年	富士聖ヨハネ学園が移転
1977 (昭和52)年	小中学校で給食開始
1978 (昭和53)年	第1回忍野八海祭りを開催
1984 (昭和59)年	ファナック株式会社本社が移転
1985 (昭和60)年	忍野八海が日本名水百選に選ばれる
1986 (昭和61)年	第41回国民体育大会相撲競技が開かれる
1993 (平成5)年	山梨県水産技術センター忍野支所が移転し新しく完成
1994 (平成6)年	忍野八海が県新富岳百景選定地に指定
1995 (平成7)年	新忍野中学校完成。 念願の中併置校が解消
2001 (平成13)年	山梨県立富士湧水の里水族館オープン
2004 (平成16)年	岡田紅陽写真美術館と小池邦夫絵手紙美術館を併設し、四季の杜おしの公園がオープン
2005 (平成17)年	忍草浅間神社の三神像が国の重要文化財に指定
	忍野ため池完成(内野地区)
2006 (平成18)年	「一市二村間連絡道路」(一市二村道)の忍野村忍草一富士吉田市大明見間(4.2キロ)が先行完成
2013 (平成25)年	富士山が世界文化遺産となり、忍野八海がその構成資産となる
2016 (平成28)年	リオデジャネイロオリンピック7人制ラグビーで忍野村出身の後藤輝也選手が活躍し4位となる
2019 (令和元)年	折り紙8,179枚で「赤富士」もザイクアートを完成。「最も多い数の折り紙で作った山の展示作品」のギネス記録に認定
2021 (令和3)年	東京五輪開催。忍野村内でも聖火リレーが行われる。フランス代表のバスケットボールチームが村内で事前合宿
2022 (令和4)年	富士吉田忍野スマートインターチェンジが供用開始
	「二十曲峠展望テラス～SORA no IRO～」オープン
2024 (令和6)年	忍野小学校の新校舎が供用開始

出典：忍野村誌ほか

150周年を迎えた 忍野村でのイベント

event

8月8日 村制150周年忍野八海祭り
および記念式典

その他、各種イベントを予定しており、
詳細が決まり次第お伝えします。

基本情報

data

	1878年	2024年 (12月31日現在)		忍野村	山梨県平均 (2023年)	全国平均 (2023年)
人口	1,332人	9,733人	出生率	11.8 (県内最高値)	5.7	6.0
世帯数	303戸	4,228戸	人口の自然 増加率	2.1	-8.9	-7.0